

株主通信

第122期

2022.4.1 ~ 2022.9.30

証券コード 7105

Logisnext

Logistical Equipment & System Solutions Next

三菱ロジスネクスト株式会社

中期経営計画の中間年度として、回復基調にある需要をしっかりと捉え グローバル総合物流企業としての新たな飛躍を目指していきます。

中期経営計画『Logisnext SolutionS 2023』2年目となる当期(2023年3月期)は市場の需要回復を受けて売上が増加しました。今後は部品不足やコスト高問題に適切に対処することで利益面でも業績回復を果たし、グループのさらなる成長・発展につなげていきます。



代表取締役社長
間野 裕一

当上半期の市況と業績の総括

株 主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。本年6月、三菱ロジスネクストの代表取締役社長に選任され、就任いたしました間野でございます。

当期(2023年3月期)上半期の世界経済は、欧米諸国での金融引き締めや中国でのロックダウンによる景気減速、さらには継続するウクライナ侵攻も相まって不透明感が増しました。一方で当社が事業展開する物流機器市場では、前年度から全体的にニーズの回復基調が続いており、国内や米州市場では需要がコロナ禍前を上回るまでの水準となっています。当社グループにおいても、上半期の各社の

受注は概ね好調に推移しました。ただし、半導体不足を契機に前年度から始まった様々な部品の供給不足と価格の高騰、輸送運賃の高騰などによってコスト高の状況が依然続いており、特に国内事業では受注は堅調であるものの部品欠品などから出荷が進まない状態が続いています。

これらの結果、当上半期のグループ連結売上高は、2,795億9千5百万円(前年同期比29.4%増加)の増収となりました。一方、利益面については、原材料及び輸送費の高騰影響に加え部品欠品による国内事業の減収が響き、営業利益は10億8千1百万円(同30.8%減少)、経常利益は10億2千7百万円(同28.3%減少)のいずれも減益となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は13億5千1百万円(前年同期は2千6百万円の利益)となりました。なお、当社が経営上の指標として重視する「のれん等償却前営業利益」は、62億1千7百万円(前年同期比1.4%減少)、営業利益率は2.2%でした。

下半期の取り組みと今後の見通し

世 界経済は減速懸念が高まる中で予断を許さない状況が続いていますが、足下の事業環境に関して言えば、物流機器市場におけるニーズ回復基調は下半期も継続することが予想されます。一方で、様々な部品の供給遅延によるリードタイムの長期化、原材料費・輸送費などの

主な略歴

- 1986年 4月 三菱重工業(株) 入社
- 1996年 7月 三菱キャタピラーフォークリフトアメリカ(株) プロダクトサポート部長付
- 2003年 4月 三菱重工業(株) 汎用機・特車事業本部 企画経理部 主席部員
- 2004年 4月 同社 汎用機・特車事業本部 物流機器部 事業戦略グループ主席部員
- 2009年 4月 同社 汎用機・特車事業本部 物流機器部 次長
- 2011年 10月 同社 汎用機・特車事業本部 フォークリフト事業部 フォークリフト営業部長
- 2013年 4月 当社 取締役 上席執行役員 経営企画室長
- 2014年 7月 三菱キャタピラーフォークリフトヨーロッパ(株) 代表取締役社長
- 2017年 6月 当社 取締役 退任
- 2018年 6月 当社 上席執行役員 事業推進サポート室副室長
- 2019年 4月 当社 上席執行役員 事業推進サポート室長
- 2020年 4月 当社 上席執行役員 海外営業本部長
- 2020年 7月 当社 上席執行役員 海外事業本部長
- 2022年 4月 当社 上席執行役員 経営戦略室長
- 2022年 6月 当社 代表取締役社長 兼 経営戦略室長(現在)

コスト高も当分は継続が予想されるため、引き続き部品供給の確保や整流化による出荷促進に取り組むとともに、価格の改定やコスト削減にも注力していきます。

通期業績については、欧米市場を中心に出荷促進や価格改定の効果が出始めてきていること、特に米州において需要の高まりを背景に販売子会社のリース・レンタル事業が拡大していることなどから、売上高は前回(2022年5月)発表した業績予想を上方修正し、過去最高となる6,100億円(前期比31.1%増加)を見込んでいます。

また利益面については、資材費の高騰などによる変動費の悪化が見込まれるものの、売上高の増加や価格改定の効果、為替レートが想定以上の円安水準で推移していることなどから営業利益は115億円(同220.1%増加)、経常利益100億円(同208.6%増加)、親会社株主に帰属する当期純利益は35億円(同388.0%増加)と、すべての利益項目に

おいて前回予想を上回る増益を見込んでいます。なお、のれん等償却前営業利益については、前回発表に比べ40億円の増額となる215億円を予想しています。

中長期の展望

当 社グループは昨年度より3か年中期経営計画『Logisnext SolutionS 2023』を推進しています。三菱ロジスネクストとして初となる本中計の3年間は、当社グループの新たな飛躍に向けた極めて重要な期間と捉えており、「企業耐力の強化」「成長戦略の推進」「ブランド力向上」の3つを基本戦略として、最終2023年度に「連結売上高5,000億円・のれん等償却前営業利益300億円(営業利益率6%)・自己資本比率20%以上」を達成することを目標に掲げています。

人々の経済・社会活動において「物流」は必要不可欠な機能

ですが、物流現場のニーズは時代とともに変化・進化を続けており、われわれ物流機器メーカーには、これに対応して商品・サービス・ソリューションを常に進化させていく努力が求められます。

当社ではお客様の「安全・安心」ニーズに応えるべく、AIなどの先端技術を駆使した安全支援システムや各種の安全機能を機器に搭載して安全な作業環境づくりに貢献しているほか、労働力の不足や貨物の小口化を背景に世界的に高まっている「省人化・省力化」ニーズに応えて、無人フォークリフトや自動倉庫といった自動化物流機器の積極的な提案を広げています。さらに気候変動問題やエネルギー資源問題を背景とした「省エネ・脱炭素化」ニーズに対しても、日本のバッテリーフォークリフトのパイオニアとして、お客様の脱炭素化を支援する多様な環境配慮型製品の提供に努めています。

物流の課題とそれに応えるソリューション

「安全・安心」

フォークリフトによる災害事故を防ぐため、ハード面ではAIなど先進技術を活用した安全支援システムや、実績とノウハウに基づく各種安全機能を車両に搭載しているほか、ソフト面では安全講習会や安全ツールの提供などの安全啓発活動を行っています。



大型フォークリフト用AI人検知システム「グッドファインダー」

「省人化・省力化」

1971年に世界初のAGF(無人搬送フォークリフト)を開発したパイオニアである当社は、これまで工場や倉庫内物流を中心に、現場の無人化ニーズに最新技術で応えてきました。今後は、より広い範囲で「人と機械の共存」を実現させるべく、さらなる物流の自動化に向けた取り組みを進めていきます。



AGF・AGV(無人搬送車)連携「自動ピッキングソリューション」

「省エネ・脱炭素化」

高まる気候変動への関心を背景に、物流業界においても、より環境に配慮した脱炭素化・低炭素化に資する製品・サービスを求める声が高まっています。当社は、港湾、倉庫、工場など様々な物流シーンで省エネ・脱炭素化を実現する製品を開発、提供しています。



優れた環境性能を実現した新型エンジンフォークリフト「ERSIS」

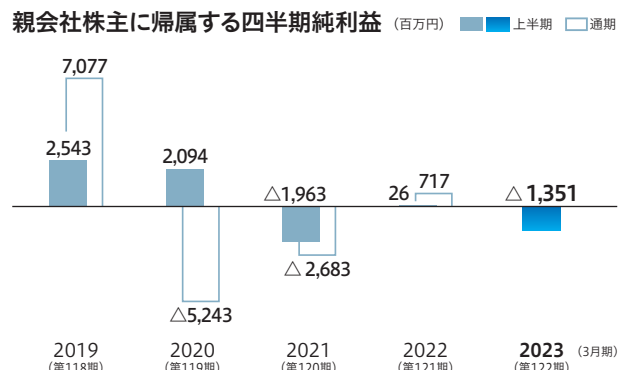
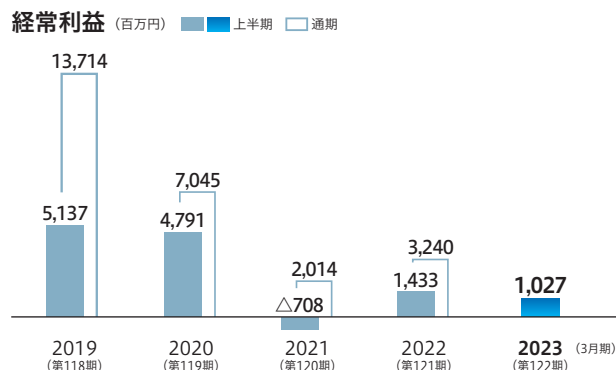
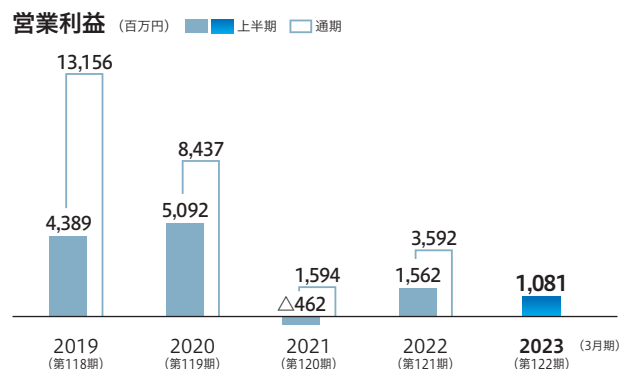
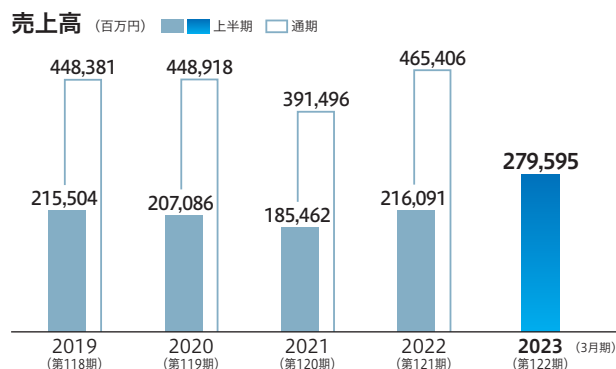
株主の皆様へのメッセージ

当 社ではその期の収益状況に対応して、株主各位への配当の充実と企業基盤確立のための内部留保とのバランスに配慮した利益配分を行うことを基本方針としています。当期の期末配当金については、先述した業績予想修正も踏まえて前年度から1円増配し、1株当たり9円で実施させていただく予定です。

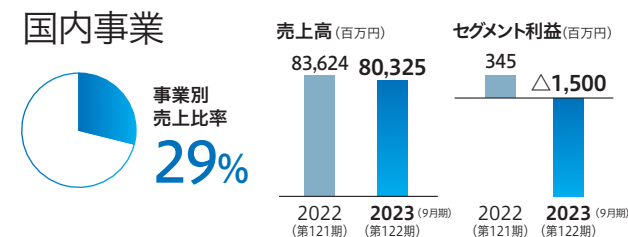
当社グループの強みは「多様性」にある、と私は考えています。様々な歴史や源流をもつ世界各地の企業が当社には集結しています。それらが互いの文化や個性を最大限に

尊重し、良い部分を積極的に取り込むことでグループ全体を進化させてきました。そうした世界レベルでの多様な文化の融合は、業界の他のグローバル企業には見られない当社独自の強みです。様々な意味で激しい変化が予想される今後の事業環境においては、この「多様性」がますます力を発揮するはずだと私は確信しています。新社長として、今後この強みをさらに活かしてグループの総合力を最大化し、持続的な企業価値向上につなげていこうと考えています。

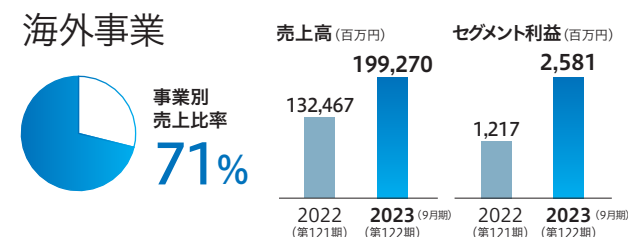
株主の皆様には、引き続き当社グループへの温かいご理解、ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



事業別業績概況



国内事業は、受注は堅調に推移しているものの、部品欠品から出荷が進んでいないことにより、売上高は803億2千5百万円(前年同期比3.9%減少)となりました。セグメント損失は、売上高の減少に加え、コスト高の影響もあり、15億円(前年同期は3億4千5百万円の利益)となりました。なお、のれん等償却の影響を除くと、セグメント利益は9億1千5百万円(前年同期比66.6%減少)となっております。



海外事業は、米州、欧州を中心とした販売台数の増加に加え、為替の円安影響も寄与し、売上高は1,992億7千万円(前年同期比50.4%増加)となりました。セグメント利益は、原材料及び輸送費の高騰影響はあるものの、売上高の増加に加え、価格改定の効果が出始めてきていることなどにより、25億8千1百万円(同112.0%増加)となりました。

なお、のれん等償却の影響を除くと、セグメント利益は53億2百万円(同48.6%増加)となっております。

国際物流総合展 2022 リアル&オンラインのハイブリッド型ブースを出展

2022年9月13日～16日、東京ビッグサイトで「国際物流総合展 2022」が開催され、当社は三菱重工工業(株)からの協力も得て出展しました。

出展では、お客様や社会に喜ばれる持続可能なソリューションの提案をコンセプトに、会場ブースに加えオンラインで動画配信を行いました。中でも、高効率レーザー誘導方式無人フォークリフトの実機デモンストレーションは、AGF※1の有人フォークリフトに匹敵するパフォーマンスに高い関心が寄せられました。

ブース集客は4日間で展示会全体の来場者数の約5分の1にあたる約13,000人。リアル&オンラインのハイブリッド出展により、全国のお客様に当社のソリューションをご提案しました。



オンラインショールーム
ショールーム ブース全景

持続可能なソリューションを提案



メインステージでは過去最大サイズとなる幅12メートルのスクリーンを設置し、脱炭素社会実現に向けた製品や物流DXの取り組み事例の紹介、実機デモンストレーション、研究施設映像との連携を実施しました。

※1 無人搬送フォークリフト ※2 リチウムイオン

実機実演エリアとバーチャルイベント



当社オンラインショールームのバーチャルイベントと併催で、AGF※1 2機種のうちオンラインアンケートの投票で実演機種が決まるLIVE参加型のデモンストレーションを実施。

展示車両コーナー

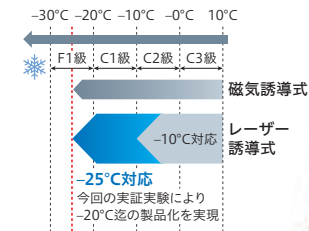


次世代環境対応へのニーズが高まっていることを踏まえて、ブース前面にはLi-ion※2 電池車仕様の「ALESIS」や、環境対応エンジン車「ERSIS」の展示コーナーを設けました。

日本 マイナス25℃対応の無人フォークリフトを発売

当社は、マイナス25℃の冷凍倉庫に対応したレーザー誘導方式無人フォークリフトを2022年6月に販売開始しました。これまでは霧や結露がレーザー運用の障害となっていたマイナス25℃の環境において、当社が培ってきたレーザーAGF技術をもとに防錆対策を施すことにより、国内で初めてレーザー誘導方式の製品化を実現しました。本製品とおして、作業者の負担や慢性的な人手不足といった現場の課題解決に貢献します。

温度帯別での無人フォークリフト対応実績



欧州 パワー性能に優れた電動フォークリフトを発売



欧州グループ会社Mitsubishi Logisnext Europe B.V.が、中型電動フォークリフト「EDiA XL」を2021年4月に販売開始しました。欧州市場向けに販売している電動フォークリフト「EDiA」シリーズの中型車で、同クラス最高レベルのエネルギー効率で環境性に優れ、パワーが求められる現場にも対応します。カーボンニュートラルが進む欧州では電動車が市場の8割を占めており、本製品はそうした需要に応え今後の活躍が見込まれています。

北米 重要拠点の販路強化により事業拡大を目指す

米国における当社直系の販売会社 Equipment Depot, Inc.は、北米市場における営業力の強化を重要戦略と位置付け、物流機器の代理店 Norlift of Oregon, Inc.を買収し2022年10月に事業統合を行いました。米国北西部には大型の港湾をはじめ多くの物流拠点があり、大型フォークリフトの販売や、倉庫と無人搬送システムを組み合わせたトータルソリューション提案の機会が見込めます。業務効率化に努めながら、事業拡大を図っていきます。



Equipment Depot, Inc.

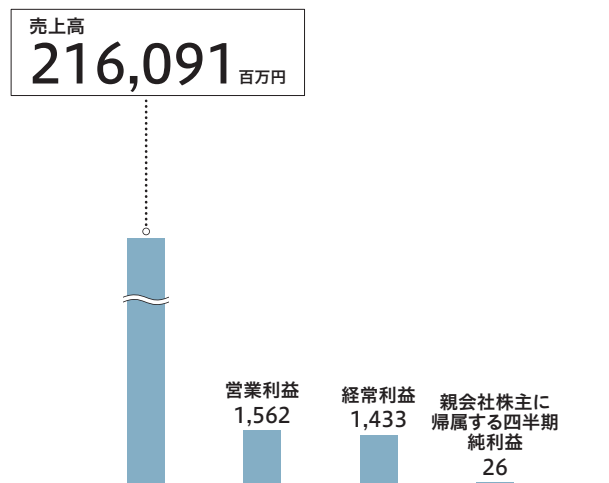


Norlift of Oregon, Inc.

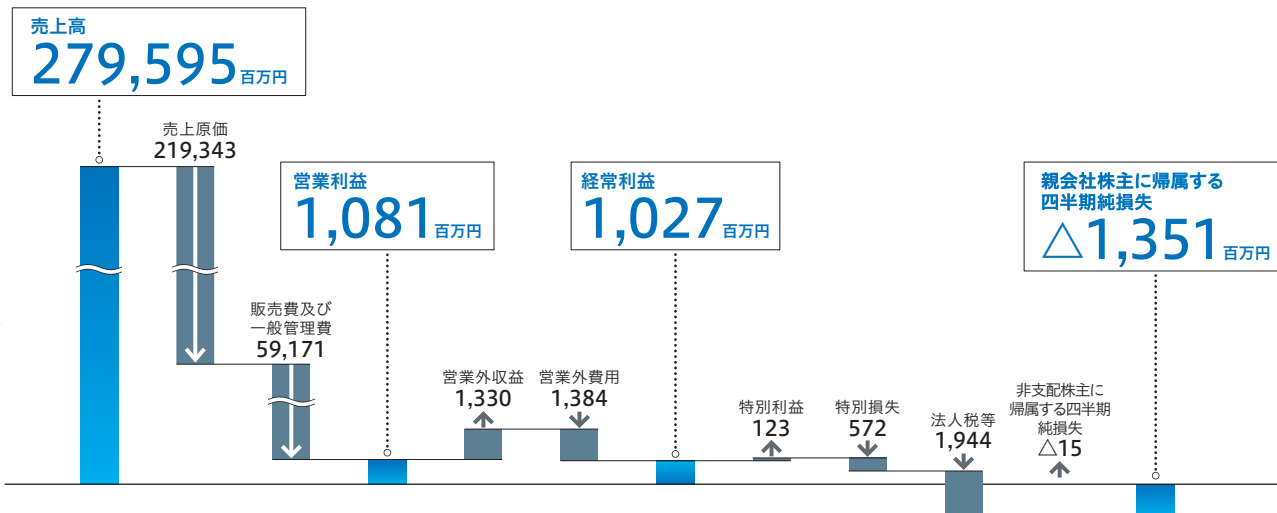
主要連結財務指標

連結損益計算書 (百万円)

前 第2四半期(累計) (2021年4月1日～2021年9月30日)

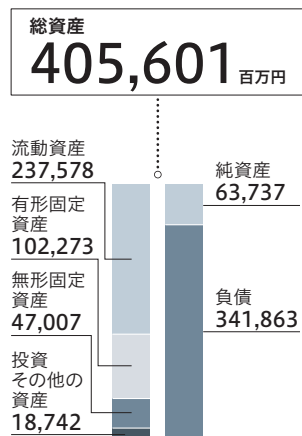


当 第2四半期(累計) (2022年4月1日～2022年9月30日)

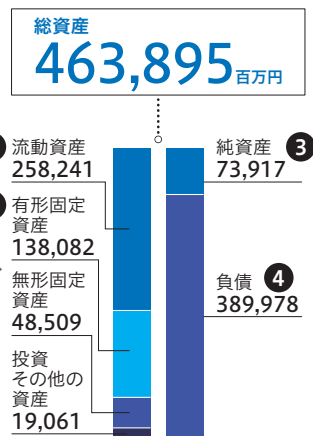


連結貸借対照表 (百万円)

前期末 (2022年3月31日)



当 第2四半期末 (2022年9月30日)

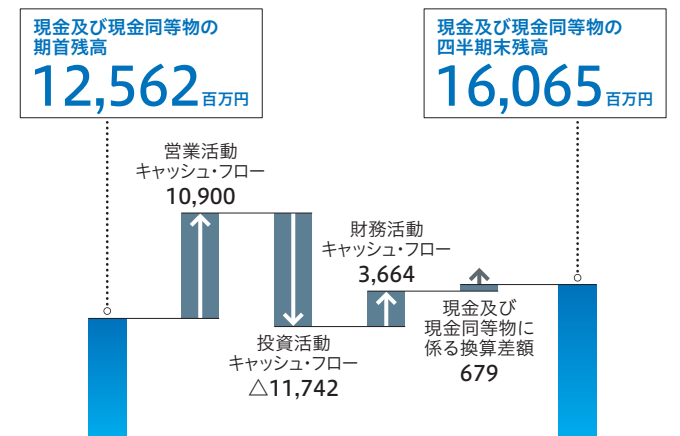


POINT

- 流動資産**
為替の円安影響による売掛債権及び棚卸資産の増加等により20,663百万円増加しました。
- 固定資産**
会計方針の変更に伴うリース債権の増加等により37,630百万円増加しました。
- 純資産**
新株予約権及び非支配株主持分を除くと73,295百万円となり、前連結会計年度末より10,163百万円増加しました。
- 負債**
為替の円安影響に加え、会計方針の変更に伴うリース資産の増加等により48,114百万円増加しました。

連結キャッシュ・フロー計算書 (百万円)

当 第2四半期(累計) (2022年4月1日～2022年9月30日)



会社情報

会社概要 (2022年9月30日現在)

社名	三菱ロジスネクスト株式会社 (Mitsubishi Logisnext Co., Ltd.)
設立	1937(昭和12)年8月
資本金	4,926百万円
国内主要事業所	
本社・京都工場	〒617-8585 京都府長岡京市東神足2-1-1 TEL:075-951-7171 FAX:075-955-3797
滋賀工場	〒523-0013 滋賀県近江八幡市長光寺町578 TEL:0748-37-6700 FAX:0748-37-3259
安土工場	〒521-1334 滋賀県近江八幡市安土町西老蘇8-1 TEL:0748-46-5511 FAX:0748-46-6854
オンサイト 研修センター	〒345-0023 埼玉県北葛飾郡杉戸町大字本郷576 TEL:0480-37-2108 FAX:0480-33-8034

取締役及び監査役 (2022年9月30日現在)

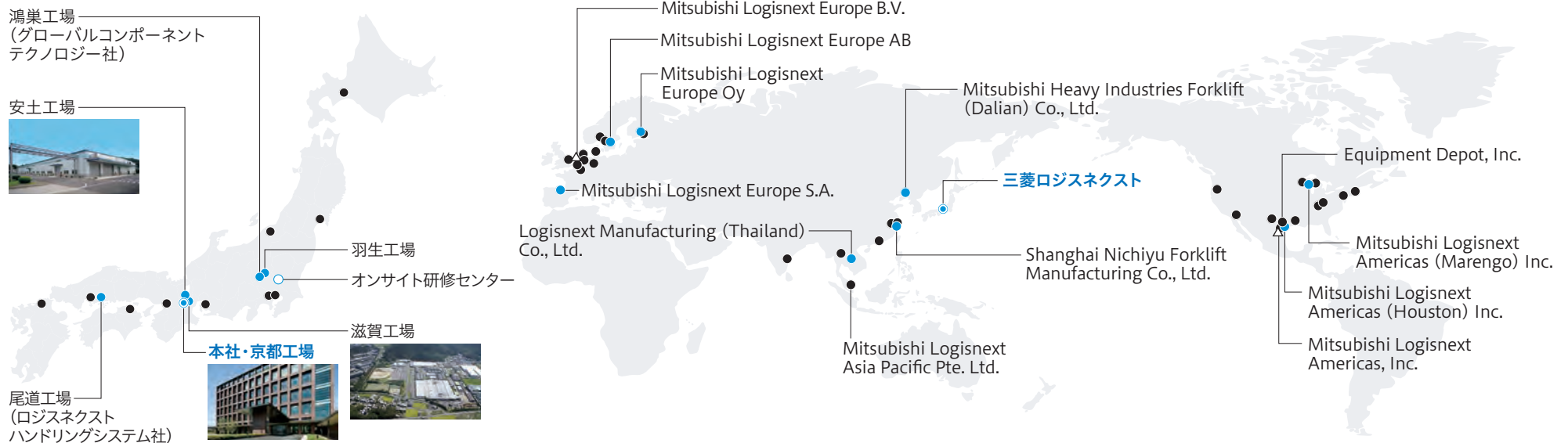
代表取締役会長	御子神 隆	三菱重工業(株) 常務執行役員 ドメインCEO 物流・冷熱・ドライブシステムドメイン長
代表取締役社長	間野 裕一	
取締役	新家 雅隆	
取締役	宇野 隆俊	
取締役	末松 正之	三菱重工業(株) 執行役員 グループ戦略推進室長 兼 物流・冷熱・ドライブシステムドメイン 副ドメイン長
社外取締役	安藤 修	((株)島津アクセス 代表取締役社長)
社外取締役	小林 京子	弁護士、弁護士法人色川法律事務所パートナー 川上塗料(株) 社外監査役 日本ビラー工業(株) 社外取締役
社外取締役	小林 史男	((一社)日本マテリアルフロー研究センター 顧問)
常勤監査役	馬場 浩司	(大日本塗料(株) 社外取締役)
常勤監査役	市原 信二	
社外監査役	倉垣 雅英	
社外監査役	福岡 靖之	(DNライティング(株) 監査役)
社外監査役	吉村 茂	

会長、社長及び執行役員 (2022年9月30日現在)

会長	御子神 隆
社長	間野 裕一
常務執行役員	新家 雅隆
上席執行役員	Kenneth J. Barina
上席執行役員	藤田 伸二
上席執行役員	石原 範光
執行役員	延命寺 義之
執行役員	荒木 正久
執行役員	Tapio Rummukainen
執行役員	宇野 隆俊
執行役員	鳴川 浩志

ネットワーク (2022年9月30日現在)

● 生産拠点 ● 主要販売拠点 ▲ 地域統括会社



株式の状況

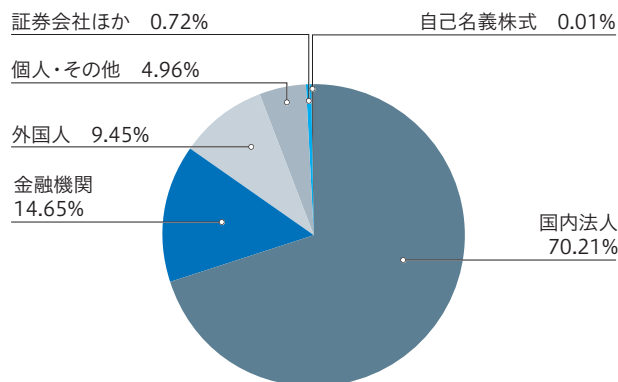
発行可能株式総数	普通株式	392,725,256株
発行済株式総数	普通株式	106,658,013株
株主数	普通株式	9,453名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率
三菱重工業株式会社	68,888	64.59%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	6,423	6.02%
株式会社GSユアサ	4,701	4.41%
株式会社日本カストディ銀行	4,119	3.86%
GOVERNMENT OF NORWAY	1,564	1.47%
株式会社三菱UFJ銀行	1,363	1.28%
株式会社京都銀行	1,301	1.22%
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG	846	0.79%
JP MORGAN CHASE BANK 385781	832	0.78%
BARCLAYS CAPITAL INC A / C CLIENT SAFE CUSTODY	823	0.77%

※ 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



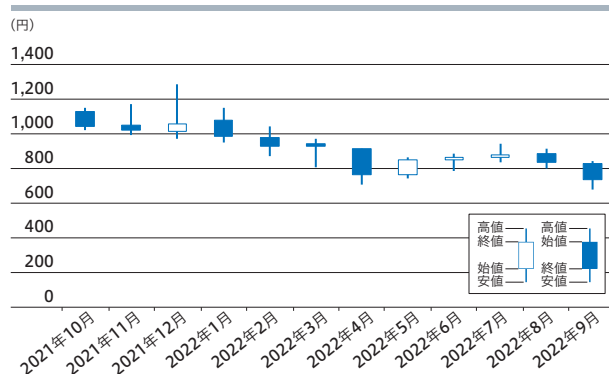
株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町3-6-3 TEL 0120-094-777(通話料無料)	
同連絡先	
特別口座の 口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉2-8-4 TEL 0120-782-031(通話料無料)	
同連絡先	
上場証券取引所	東京証券取引所スタンダード市場上場
単元株式数	100株
電子公告により行う 公告掲載URL http://www.pronexus.co.jp/koukoku/7105/7105.html (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。)	
公告の方法	

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三井住友信託銀行にお問合せください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行ではお手続きできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株価の推移



株主優待制度

株主の皆様の日頃からのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、より多くの方々に長期にわたり当社株式を保有していただくため、株主優待制度を導入しています。

対象となる株主様: 毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された、当社普通株式100株(1単元)以上を保有される株主様。

優待内容:

継続保有期間	配布内容
2年未満	QUOカード1,000円分
2年以上	QUOカード2,000円分

その他: 株主優待の詳細は、当社HPをご覧ください。

贈呈時期: 優待品は毎年、定時株主総会終了後の6月下旬にお送りする「定時株主総会決議ご通知」とともに発送いたします。

第121期定時株主総会



2022年6月24日に行われた株主総会の様子を、企業サイト内にて動画で公開しています。



企業サイト TOP



株主・投資家情報

三菱ロジスネクスト株式会社

〒617-8585 京都府長岡京市東神足2-1-1
TEL 075-951-7171
FAX 075-955-3797

